

令和7年度 大阪府三島精神医療懇話会 議事概要

日時: 令和7年 12 月 19 日(金)午後2時から午後3時 10 分

開催場所: 高槻市立総合保健福祉センター3階 研修室

出席委員: 10 名

岡村委員、高橋委員、稲田委員、川部委員、小坂委員、加藤委員、金沢委員、
八尾委員、村上委員、鶴崎委員

■議題1 第8次大阪府医療計画について

①第8次大阪府医療計画 PDCA 進捗状況 三島二次医療圏

資料に基づき、高槻市保健所から説明。

【資料1】2025 年度 第8次大阪府医療計画 PDCA 進捗状況 三島二次医療圏

(質問・意見等)なし

■議題2 精神保健医療の現状及び取り組みについて

①都道府県・地域連携拠点医療機関について情報提供

②夜間・休日 精神科合併症支援システムについて

③高槻市保健所・大阪府茨木保健所の取り組みについて

資料に基づき、高槻市保健所、大阪府茨木保健所から説明。

【資料2】都道府県・地域連携拠点医療機関(三島二次医療圏)

【資料3】夜間・休日 精神科合併症支援システムについて

【資料4】高槻市保健所・大阪府茨木保健所 精神保健関連事業

(質問)

○高槻市保健所と茨木保健所との間で情報交換や相互協力などされているのか。

(高槻市保健所の回答)

○三島医療圏OACミニフォーラムを共催で実施している。また、年1回北ブロック保健所精神保健業務検討会議で北摂地域の各保健所の事業や今後の取り組みについて意見交換をしている。

■議題3 高齢者のメンタルヘルスについて

①高齢者の現状について

②高齢者における精神科と身体科の医療機関間連携についての現状調査

資料に基づき、大阪府健康医療部保健医療室地域保健課、高槻市保健所から説明。

【資料5】高齢者の現状について

【資料6－1】高齢者における精神科と身体科の医療機関間連携についての現状調査
(三島二次医療圏精神科医療機関回答まとめ)

【資料6-2】(回収資料)高齢者における精神科と身体科の医療機関間連携についての現状調査
(三島二次医療圏精神科医療機関回答まとめ)

(意見等)

○大学病院は三次救急、精神科と身体科があり、またクロザピン療法や電気けいれん療法を行うなど、特殊な立ち位置にある。

・80歳代でうつ病を持っている方が腹部刺傷で搬送され、術後に身体面の治療が落ち着いた後に精神科病棟で受け入れ、精神療法や家族支援を行った。また、身体合併症の方を単科の精神科病院より受け入れて治療に当たることも多い。ただ、転院となると身体機能が完全に回復していない状態では単科の精神科病院で受け入れるのは難しいことは理解しているため、その場合は精神科も有する総合病院が選択肢となっている。

○精神疾患を有する骨折患者のリハビリ依頼で受け入れることが多いが、リハビリが進まず、対応が難しい。

・超高齢者(90歳以上)の受け入れ依頼が来たときに、家族が延命治療の全てを実施することを希望されたときは、受け入れが難しい。

・高齢者の場合、時間に余裕があるときは事前に家族に来院していただき、病院としてできる範囲を説明する。家族に理解していただけないときは受け入れを断ることもある。

○当院には認知症病棟があるため入院時に終末期医療について家族に意向を確認するが、入院時同伴された家族のみでは今後の方針を決められないと言われるが、結局何か月経過しても決められないと言われることが多い。

・身体科受診の際は家族が同伴されず医療スタッフのみの受診では侵襲的検査はもちろんのこと、治療を実施する際に家族の同意が必要となるため、家族が受診に同伴されないと検査治療が始められないことがある。

○アルコール依存症の高齢者の入院が増加しているが、身体面の状態が悪いときもあるため、何かあったときに受け入れてくれる総合病院が安心材料となっている。

・認知症患者は総合病院でも受け入れてもらえるようになったが、アルコール依存症患者は総合病院で受け入れてもらうのが難しいため、啓蒙していく必要がある。

・当院で慢性の統合失調症の高齢者を看取することもある。その場合、癌末期患者であれば痛みのコントロールは地域の病院との連携が必要になってくる。

・大阪医科薬科大学病院や藍野病院、関西医科大学総合医療センターが身体科治療の必要な患者を受け入れてくれるので安心できる。北摂地域は医療機関が充実している。

○内科医のため精神疾患はあまり診ないが、例えばパートナーを亡くして悲嘆(反応)が長く続き適応障害を疑う患者は心療内科に早めにつなぐのが役割と思っている。認知症についても早めに気付くことが大事だと思っている。

○精神科クリニックの立場からすると、身体面が悪くなった精神疾患の方は、依頼先の身体科医療

機関が入退院を引き受ける調整をしていただければと思う。

・高齢者の精神疾患でいうと、職場のメンタルヘルス、認知症の方の働き方、高額医療費などが今後高齢者の地域での問題の1つになっていくのではと感じている。

○歯科医院に通院する患者で認知症や精神疾患を疑う方も多くいる。長年通院している患者で状態変化を感じたら家族に連絡する場合もある。

・認知症の方が家族同伴で来院する場合はスムーズに治療が進むが、本人が1人で来院する場合は治療に時間を要することがある。

○過量服薬に関して薬剤師はゲートキーパーとして動くべきだが、まだまだ力不足と感じている。

・在宅患者で服薬管理が難しい方に訪問しているが、訪問看護やヘルパーなどの支援者と連携し毎日誰かが訪問に入れるよう支援していきたい。

■議題4 その他

(質問・意見等)なし